

全国派遣レポート

第48回 日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会

@群馬・東京・大坂・山口・宮崎

2024年7月22日～7月31日

広島県 2級審判員
高永 至

開催日：2024年7月22日（月）～7月31日（水）

会場

グループステージ～準々決勝まで地域開催

（関東）ロード宮城総合運動場、大野工業大胡総合運動公園（以上、群馬県）

（関西）J-GREEN 堺 S1、ヤンマースタジアム長居、ヤンマーフィールド長居、
（以上、大阪府）

（中国）維新みらいふスタジアム、山口きらら博記念公園サッカー・ラグビー場（以
上、山口県）

（九州）アミノバイタルトレーニングセンター サッカー・ラグビー場、アミノバイ
タルトレーニングセンター多目的グラウンド（以上、宮崎県）

準決勝・決勝

味の素フィールド西が丘（東京都北区）

大会要項

- （1）32 チームを A～H までの 8 グループに分けグループステージを行い、各グループ上位 1 チームがノックアウトステージに進出する。
- （2）ルールは日本サッカー協会発行「サッカー競技規則 2024/25」による。
- （3）試合時間はグループステージを 70 分（ハーフタイムは 10 分）、ノックアウトステージを 80 分（ハーフタイムは 15 分）とし、グループステージにおいては競技時間内に勝敗が決定しない場合は引き分けとする。但し、準々決勝、準決勝においては競技時間内に勝敗が決定しない場合は、ペナルティキック方式により勝敗を決定する。決勝においては 5 分間の休憩後 20 分の延長戦を行い、なお決定しない場合は PK 戦により勝敗を決定する。

※脳震盪の交代が各チーム 1 回ずつ認められ、脳震盪の交代をすることにより相手チームに交代回数 1 回と 1 人の交代がプラスされる。

最大で 7 人の交代が可能性になる。

出場チーム

全国 9 地域の代表 32 チーム

北海道（1）東北（3）関東（11）北信越（2）東海（3）

関西（4）中国（2）四国（1）九州（5）

※地域加盟登録クラブ数が 2 に満たない地域は関東第 12 代表とプレーオフを行う。

事前研修 (ZOOM)

第1回 7月2日(火) 大会要項・事務連絡

第2回 7月14日(木) テクニカル・ディスカッション (主審と副審との協力)

シンプル・シュート・クリアに伝える

タイミング・伝え方・どのような場面で伝えるか

第3回 7月21日(日) 全体ミーティング (各地域に分かれて最終確認)

大会日程

	グループステージ	主審	副審
7月22日	第1日目	平	高永
7月23日	第2日目	高永	平
7月24日	休息日		
7月25日	第3日目	高永・平	
7月26日	準々決勝		
7月29日	準決勝		
7月31日	決勝		

研修内容

テーマ **主審と副審との協力**-最適なコミュニケーションについて-

<期待したい効果・結果>

- ・主審が本当に求める副審の援助とは？副審が伝えなければならない情報とは？
- ・効果的なフラッグアップのタイミング・場面とは？
- ・主審と副審の協力関係が周囲（選手・ベンチ役員・観客）などに有効な影響を及ぼす手法となる。

まずはオフサイド・タッチジャッジ・ボールの掻き出しなど副審でないとできない仕事関
に関しては正確に行うこと。

ファウルに関しては主審が遠い場合でもスピードや勢いはある程度は分かるが、接触部位
(どこがどこに接触したのか、足裏かどうか、足首より上か下か)などは見えない可能性
があるのでそこを見極めてサポートする。

警告・退場の場合や、DOGUSO の場合など主審を呼ぶ必要があるものに関しては、
シンプル・ショート・クリアに伝えることが大事になってくる。

PA内外の判定、交代の際の援助や対立の監視、退場した選手のピッチ外に出るまでの監視、ベンチコントロールなども副審の援助になってくる。

打ち合わせのときに、この場面のときはこうして欲しいと言うのをしっかりとすり合わせをしておくことが大切。

試合中は常にアイコンタクトを取りながら試合を進めていくこと。

主審・副審

主審2試合・副審1試合をやらせていただきました。

試合の中でいかに多くの「気づき」を見つけいけるか、そこに対してどれだけ早く対応していけるかを今後の課題としてやっていかないといけないと思いました。

予測をもっとしてポジショニングを取ることによって角度を作ることができ、ボールの出所とターゲットすべてが視界に入るポジションを取ることによって、ボールに関係がないところの接触をより監視できるようになる。

口頭でのコミュニケーションだけではなく、もっと笛を上手く使っていくこと。

副審・第4審が主審とアイコンタクトと取りたいときにその場所にいる（ちゃんとアイコンタクトを取れる適切な位置にいるかどうか）ことが試合の中で情報の共有・協力していく上で重要なことではないのかなと思います。

最後に

今回、日本クラブユース選手権（U-18）大会に参加させていただきありがとうございます。

他の会場では雷雨により思うように試合を消化できない会場もあり、関係者の皆さま、選手、スタッフの皆さまにおきましてはとても大変なことだったと思います。

宮崎会場は幸い何事もなく無事に大会が終われたことに感謝したいと思います。

開催地域のみなさまをはじめ、運営の方々、選手、チームスタッフ、審判関係者またその他のいろいろな方々の協力のおかげだと思います。

今回の日本クラブユース選手権（U-18）大会での経験は今後の私の活動においても大きな力になると思います。

この経験を地域の持ち帰り、地域としても個人としてもより成長していきたいと思います。

この度は、このような大会に参加させていただきありがとうございます。